

「世界感覚に生きる」 ～グローバル化とともに～

H 3 0 . 3 . 5

1 グローバル化に対応して 校歌 1 番に、

「気高い嵐気は心に通い、世界感覚に生きる」

とあります。現代社会ではグローバル化が進み、学校教育でも全世界的な視野に立った人材育成が求められています。そのひとつが英語教育となります。ここでは、国境を越えて人々と協働するために、異文化への理解、コミュニケーション能力を育成することが主眼となります。しかし、それだけでは「世界感覚に生きる」ための力はついてきません。そこで、次のようなことも必要となると考えました。

2 「世界感覚に生きる」ために

まず、異質な集団を統率するための迅速な決断力をつけるには、課題発見・解決能力や社会課題に関する深い関心と教養を身につけなくてはなりません。それには、多様な人と関わり、様々な経験を積み重ねていくことが必要です。例えば、家庭や学校では、実体験を積み重ねる機会を確保していきます。地域の課題を探り、対策を練って実行するといった体験も大切です。

また、異文化への関心を深めると同時に、日本人としての自覚やアイデンティティ(誇り)を育むことが求められています。それには、国語教育や日本の歴史・文化等に関する教育を推進することが必要です。例えば、読書活動や古典学習などをして、言語文化の豊かさを体感させます。日本の伝統文化に触れる機会を持つことも大切です。

さらに、グローバル人材に求められる道德観、特に他者への配慮や思いやりなどを育む徳育も重要です。それには、日本人が兼ね備えてきた「美德」を中心に進めていくことが必要です。例えば、礼儀の中で重んじられる「感謝」の心を形で表現していきます。すべてのものがひとつであると感じる「和」の心の育成も大切です。

3 故郷を愛し

グローバル化とともに、生徒達の未来は地域・国境を越えて世界へと大きく広がっています。それゆえ、すべての勝山の生徒達が、この故郷勝山で一生を過ごすというは無理なことでしょう。しかし、たとえどこで活動しようとも、故郷勝山を愛する心を持ち続けて欲しいと願います。そして、未来への飛躍を担うための創造性やチャレンジ精神を持ち、様々な分野で活躍できる人材となってくれることを期待したいです。

